

はじめに

誰もが実践できる 99点の資産運用法は、 なぜ、どのように生まれたのか

本書は、ソフトウェアエンジニアである私が2020年1月にGitHub（プログラムコードや文書を共同で開発・共有・公開できるプラットフォーム）のサイトで公開した同名の記事がもとになっています。当時ひっそりと公開したにもかかわらず、記事はSNS等で話題になり、瞬く間に100万PVを達成しました。さらに、「はてなブックマーク」では、同年、最もブックマークされた記事となりました。この反響には私も驚きました。

資産運用に関してはこれまで多くの記事が書かれていたはずです。書籍をはじめ、SNSやYouTubeでは、今多くの人が投資について語っています。それにもかかわらず、私の書いた「普通の人が資産運用で99点をとる方法とその考え方」はどうしてこれほど話題になったのでしょうか？

執筆のきっかけ

「資産運用の方法」というのは「自転車の乗り方」に似ています。初めて自転車に乗るときは誰でも緊張しますが、一度乗り方を覚えてしまえば、一生ものです。私にとって資産運用の方法も同じでした。最初はドキドキするかもしれません

せんが、正しい情報源で基本を学べば、それは一生ものです。その後は、気にしなくて済むようになります。

ある日、知り合いと資産運用の話題になり、資産運用の方法を知りたいと頼まれました。私は過去に勉強した知識をもとに信頼できる日本語の記事をネットで探して紹介しようとしたが、安心してオススメできる記事は見つかりませんでした。見つかる記事の多くは、個人の直感や思い込みにもとづいており、誤解を招きやすく、具体性や再現性に乏しいものでした。探し疲れた私は、これなら自分で書いたほうが早いと思い、必要な情報をまとめ、ここだけ見れば他は見なくて大丈夫と言える記事を目指してGitHubで公開することに決めました。

「普通の人が資産運用で99点をとる方法とその考え方」では、これまでの資産運用に関する誤った常識や慣習の間違いを指摘するとともに、忖度なしに事実と正しい知識を伝え、理論に基づいた資産運用の考え方を広めることに努めました。さまざまな事情から、これは金融業界や証券会社の関係者には難しいでしょう。私がこれらの業界や関係者とはまったく縁のない人間であったことが功を奏したかもしれません。

本書の特徴

本書の内容は実践的です。事実や理論が大事であるのはもちろんですが、それと同じくらいに大事なのは現実的で簡単に実践できる資産運用の方法です。本書に登場する99点をとる方法は具体的であり、誰もが実践できます。実践をするだけなら、難しい勉強をする必要はありません。

本書には数年で内容が古くなるような説明は登場しません。例えば、特定の銘柄の過去の成績のグラフや注目の銘

柄の紹介はしていません。今後、10年、20年、さらに50年にわたって内容を大幅に変更する必要がないように、普遍的で本質的な資産運用の方法と考え方を紹介しています。たとえ一部の制度、例えばNISAの制度が将来変わっても、本書の内容を理解していれば、読者は自分で99点の資産運用を続けることができるでしょう。

本書で紹介する方法は、読者の年齢や資産額等は一切問いません。資産運用をするとしないとでは、生涯に使用できるお金が何倍にも変わりえます。そして、何事もそうですが資産運用を始めるのに遅すぎることはありません。

ただし、資産運用を始めることは大事ですが、それに時間を使う必要はありません。資産運用の方法を学ぶのは、始めるときだけです。本書の方法を一度学び理解すれば、その後、資産運用に費やす時間は1年に30分程度で済むでしょう。

本書のもとになった記事は、先ほど述べたGitHubと呼ばれるオープンなプラットフォーム上で公開されており、誰でも記事の内容についてフィードバックを送ることができます。これまでにも多くの人々がその内容をチェックし、寄せられたフィードバックをもとに改善を加えてきました。記事は今も多くの方に読まれており、通算300万PVとなっています。この場を借りて、記事の改善に協力してくれた方に心から感謝いたします。

最後にお約束ですが「投資は自己責任」です。本書は資産運用の方法とその考え方を体系的にまとめたものであり、投資行動の指針となることを目的としています。しかしながら、実際の投資行動の成否は、個々の読者の皆さんの判断と責任において行われるものであることをご理解くださると

幸いです。

本書が資産運用の正しい方法と考え方を広める一助となることを願っています。

Hayato Ito

August, 2024

目 contents 次

誰もが実践できる

はじめに

99点の資産運用法は、
なぜ、どのように生まれたのか……3

- こんな人におすすめします
- この本の構成について

第1部 結論編19

20 結論を最初に教えてください。
何をしたらよいでしょうか？

- NISAの枠

23 してはいけないことは何でしょうか？

25 iDeCo、NISA、特定口座のうち
どれを優先すべきですか？

- iDeCoのメリット、デメリット

27 資産のうちどれだけの割合をiDeCo、
NISAなどに回せばよいのでしょうか？

[column] リスク許容度とは何か……28

- 資産配分の具体例

- [考え方のコツ] 資産運用のハードルを下げる

[column] 資産運用は節約ではない……33

34 資産運用の具体的な実践例を教えてください

- **例** Aさんの場合
- **例** Bさんの場合
- **例** Cさんの場合

やるべきことはそれだけでいいのですか？
一度設定したら、何もしなくてよいのでしょうか？

第2部 理論編41

- 42 資産運用で大事なのは
「余計なことをしない」こと
- 44 インデックスファンドが
強い理由を教えてください
- 46 インデックスファンドの中でも
市場平均が最強なのはどうしてですか？
[column] 複雑さを避けシンプルに (KISSの原則)47
- 48 株には買い時があるのですか？
 - マーケットタイミングはありません
 - ランダムウォークとは？
[column] 市場は完全に効率的？50
 - 市場は完全ではないが、個人投資家が勝つのは難しい
 - 非効率性の影響はごくわずか
 - 金融理論は完璧ではないが十分実用的
- 51 リスクって何ですか？
 - リスクと投資結果の関係
 - リスクを理解して不確実性に向き合う
 - リスクの定義
[column] 標準偏差とは54
 - 標準偏差の例
 - 本書におけるリスクの使用方法

- リスクと株価変動を混同しない
- 異なる意味で使用されるリスクの例

長期投資するのであれば結果は安定するのだから

58. **リスクは気にしなくてよいのでは？**

リターンだけ追求すればよいのでは？

- 誤解を生むリスクの説明
- リターンの中央値
- リスクが将来のリターンに及ぼす影響
- グラフの見方
- 評価額の分布グラフの比較
- パーセンタイルで見るリスクの影響
- パーセンタイル値の比較
- リスクが大きくなると、
期待リターンを下回る確率が高くなる
- 資産運用で重要なのはリターンの中央値

[column] あてにならない平均値……70

長期投資ではリスクは減るって聞きました。

71. **本当ですか？**

- 長期投資でリスクは減らせるという誤解
- 長期投資すると「1年あたりのリスクは減る」の誤解
- 年平均リターンのブレとの誤解

でも長期投資すると

元本割れリスクは減りますよね？

- 元本割れする確率を減らすには

[column] 減らせるリスクと減らせないリスク……76

- リスクをとらなければリターンは得られないの誤解

インデックスファンドは

77. **海外の株式に投資していますが、
為替リスクはどうなんでしょうか？**

- 為替リスクとは
- 為替リスクの影響はどれくらい？

[column] 為替リスクとの向き合い方……79

- ・為替予想に振り回されない

80 本書の99点ってどういう意味でしょうか？

[column] 過去リターンと期待リターン……81

第3部 Q&A編 一余計なことをしないために一 ……83

84 それでも悩んでしまうあなたへ

85 私はインデックスよりも大きなリターンがほしいから個別株にも手を出しています。いけないでしょうか？

- 個別株で大きくなるのはリスクであり、リターンではない
- 資産配分の最適化

88 若いうちはリスクがとれるので個別株のほうがいいのではないか？

- リスクの調整は、リスク資産の割合で行う

90 米国株（S&P500など）と全世界株式、どちらのインデックスファンドがよいのでしょうか？

- 世界の広さ：全世界株式 > S&P500
- コストの優秀さ：S&P500 > 全世界株式
- どちらも一長一短

92 私はどちらにするか選べません。どちらも半分ずつ持つのはありますか？

- 資産配分はリバランスが前提
- 過去リターンにとらわれない

94 リスク資産として株式だけでなく「債券」も入れたほうがよいと言われたのですが？

[column] リスク分散の誤解と投資効率の重要性……95

- 分散の目的は投資効率の向上

97 「今は高値だから現金を貯めておいて暴落時に買おう」のほうがよくないですか？

- その方法はすでに誰かが試している

100 具体例(P34)では資産の50%を一括でリスク資産に投資していましたが、少しずつ分割して投資したほうがよいのでは？

- ドルコスト平均法の呪い
- ドルコスト平均法は資産配分を歪める要因
- ドルコスト平均法はマーケットタイミングを計る方法

104 ドルコスト平均法は時間分散だからよい方法だと聞きました！

- 時間分散は投資効率を向上させない
- 「市場に投入する資金 × 年数」の掛け算が重要
- 一括投資とドルコスト平均法の公平な比較
- ドルコスト平均法に特別な効果は何もない

109 ドルコスト平均法はだめなんでしょうか？
私は給料の中から毎月3万円積立しているのですが

- 自信をもって積立を続けましょう

[column] ドルコスト平均法という用語……110

111 ドルコスト平均法なら「株価が安いときに多く」株数を購入することができます。
これってよいことでは？

- 口数・株数のトリックに騙されない

113 出口戦略／いつ売却すればよいのでしょうか？
いつ売却や利益確定すればよいのかわかりません

- 資産運用に出口はありません
- 売却をもっと簡単に

- 116 NISAと特定口座、どちらから売却したほうがよい？
- 117 レバレッジ型商品はどうでしょうか？！
- レバレッジ型商品とは
 - レバレッジ型商品が必要になるとき
 - レバレッジのコスト
 - レバレッジはリボ払い？
- レバレッジのリスクが高いのは理解していますが
私は耐える自信があります！
- 120 「リスク許容度」は高いので、
レバレッジをかけてもいいですか？
- リターンはリスクに比例しない
- [column] 過去の成績がよかつたサイコロに
レバレッジをかける危険性……123
- 私はインデックス投資で資産を増やし
リタイア後には高配当株に乗り換えて
配当金生活を送る予定です。
この戦略はどうでしょうか？
- それでも配当がもらえるって
嬉しいじゃないですか！
- 配当が投資効率に与える悪影響
- 128 その他によくある質問について
- 積立は毎日と毎月どちらがよいですか？
 - 毎月の積立は、いつがいいですか？
他の人と同じ日は避けたほうがいいですか？
 - NISAは年初にまとめて投資するべきですか、
それとも毎月積立がいいですか？
 - 同じような投資信託を複数持っているより、
まとめて一つの商品に変えたほうが複利効果が
分散されずよいと思うのですが、どうでしょうか？

- 含み益は利益を確定して、再投資しないと、複利にならないと聞きました
- 含み益は幻なので、利益は定期的に確定したほうがよいのでは？
- 含み損は幻なので、含み損がなくなるまで売却しないほうがよいのでは？
- 〇〇も長期投資ではなく短期投資なら問題ないのでは？
- インデックスファンドの価格がゼロになることはないのでしょうか？
- オルカン等の全世界株式ポートフォリオは米国株が約6割を占めています。
分散されていないように思うのですが？
- 資産運用ってもっと一攫千金の夢があるものだと思っていました！
- SNS等では「インデックス投資は思考停止。成長しない。毎日、投資に真剣に向き合うべき」という声があります！

最後に……134

99点の方法を実践するための20箇条……136

巻末付録……140